

小沢の地方行政委員長・栗屋敏彦氏
 小沢の田舎の環境づくり

非常にお答えにくいかもしれませんが、考えるだけではだめですので、短命であるならば短命であるだけの名前をとどめるような政権であってほしいという思いでおたずねします。

台湾総統訪日の環境づくりを

栗屋氏 私どもの日華議員懇談会の会長が小沢辰男さん、船田元さんが幹事長で、私が副幹事長です。先般、七名で訪問しまして、李登輝総統とお会いしました。李登輝総統は延々一時間半にわたって自分の所見をお述べになりました。台湾もまさに変わろうとしているということで、総統公選をぜひとも実現したい。改革の目指すところはあなた方と同じだということ、われわれも感銘して帰りました。

いま先生がお話しされたように、国連加盟の問題、李登輝総統訪日の問題は非常に大きな問題です。いま台湾は国際機関の中に入っているのは、APPECです。そのほかにもあるかもしれませんが、私はAPPECはこれからだんだん大きな地位を占めてくると思っています。アメリカもこの前シアトルで首脳会談までやり

ました。そういう席に李登輝総統も出られるような応援をこれからもしていきたいかなければならないと思っています。

国連の問題は、羽田さんはこのごろ盛んに常任理事国に意欲を示していますが、私はその前に国連改革というものがなければならぬと思っています。敗戦国の条項をどうするかという問題もありますし、常任理事国の数を増やす。それから非常任理事国も地域代表的な色彩を強めて、増員するという問題もあります。そういう中で、日本は常任理事国入りをどういう戦略でやっていくかということ、もう少しきわめてやっていかないとけない。あまり軽率にやってはいけないと思っています。

台湾の国連加盟については、現実の国際政治の面からすれば、いまの国連のままでは中国が拒否権を持っていますから、どうにもならないという点があります。しかし、一国二政治実態という意見の相違がありますように、政治実態を持っている経済大国ですから、個人的にはその国連加盟については前向きに押していきたいかならぬと思っています。

李登輝総統の訪日については、この前はASEAN諸国を訪問されて、タイや

フィリピンでは相当きちんとした対応をされて、中国が怒ったという問題もあります。これをどうするか。この前われわれが行きましたときに、『環境整備をしながらご歓迎申し上げるよう努力します』と申し上げて帰ってきました。外務省の事務当局あたりにはぶつかりますとカードが堅いので、これをどのようにほぐしていくか。これは政治的にいろいろな工夫を凝らしていきたいと考えています。

それから私は広島の出ですが、十月二日からアジア競技大会が広島で開催されます。その際に国交のある国については選手団、役員についてはノービザでの入国を認めました。しかし、台湾の場合は国交がありませんから、いまでも渡航証明書を持たなければならぬということ、これについて、何らかの便宜が図れないかということ、外務省とだいぶやり合いました。その結果、IDカードに認証印を押すことによって、入国してもらおうという、一歩前進の措置を取らせていただきました。

そういう意味で、これからも努力を続けていきたいと思いますが、ご指導をよろしくお願いいたします。